



学校だより

はと広場

7月号

令和元年6月28日
さいたま市立北浦和小学校
TEL 048-831-2463

自分のことが大好き！

校長 益子 聡

北浦和小学校の子どもたちの多くは〈自分には、よいところがある〉と思っています——。さいたま市が行った生活習慣に関する調査結果で、このような傾向が明らかになりました。

◆ 北浦和小の子どもたちの よいところ

調査は、2019年1月に「さいたま市学習状況調査」の中の一つ「生活習慣等に関する調査」として、さいたま市立小・中・特別支援学校の全児童生徒を対象に行ったものです。調査の中で「自分には、よいところがあると思いますか。」という質問に対し、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と肯定的に回答した本校の児童は、1年生（現2年生、以下同様）98.4%、2年生96.1%、3年生91.7%、4年生86.3%、5年生94.1%、6年生（現中学1年生）94.2%でした。これは、市の平均と比較しても各学年とも1.5～6.7ポイント上回り、多くの児童が自分にはよいところがあると思っているということがわかりました。

〈自分にはよいところがある〉という感情は、「自己肯定感」「自尊感情」などと言われ、自己肯定感が高い子は、自分に自信をもつことができ、ものごとを最後までやり抜く力、難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する意欲、人が困っているときは進んで助けようとする意識などが高いという調査結果が出ています。

自己肯定感を高めるためには、家庭では〈家の人にはほめられる。親から愛されている、大切にされているなど、家庭の温かさ〉、学校では〈先生がよいところを認めること〉などがポイントですが、先日、5年生の「グローバル・スタディ（G・S）」の授業で“～ treasure is family（宝物は家族）”と表現している子どもが多いことから、北小児童の自己肯定感が高い理由がわかります。また、2018年4月に文部科学省が実施した「全国学力・学習状況調査（小6対象）」では「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」という質問に、北小児童の97.1%が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えていることから、本校教職員の子どもたちへの関わり方が自己肯定感を高めることにもよい影響を与えているのではないかと推測されます。

◆ 子どもが自信を深める 『ほめ写』

今、自宅に子どもの写真を飾って子どもをほめる『ほめ写』というものが注目されています。わが子の写真を家に飾ると、子どもは〈自分は両親に愛されている〉と感じ、自己肯定感が高まり、子どもが自分で考え、物事に積極的に行動することにつながるそうです。『ほめ写プロジェクト』と題したこの子育て習慣を勧めているのは、教育評論家の親野智可等さんたち。発起人である親野さんは、静岡県内での20年以上の小学校教師生活を通じ、家庭訪問で〈自己肯定感が高い子どもほど、家には写真が多く飾ってある〉ことに気付いたのがプロジェクトの始まりだそうです。

子どもを写した写真を、愛情をもって飾り、それを見ながら、どうやってほめればよいのでしょうか。プロジェクトでは『ほめ写』のポイントとして、次の3点を挙げています。

- ① **撮る**；子どもが楽しそうにしている、活躍している、頑張っている姿や、家族一緒のシーンなど、愛されていることを実感しやすい写真を撮る。
- ② **飾る**；写真は子どもの目に留まりやすい高さに貼りだし、家族の愛情をより身近に感じられるように飾る。A4程度のおおきめの写真がおすすめ。
- ③ **ほめる**；親子で写真を見ながら「この時は頑張ったね」「よくできたね」と努力や成果をほめるだけでなく「生まれてきてくれてありがとう」「見ているだけで幸せな気持ちになる」など、子どもの存在そのものを肯定してあげる。

北浦和小の教室にも、自己紹介カード、係活動表、学級目標、様々な行事での思い出などの掲示物には多くの写真が貼られ、それぞれに子どもたちの素敵な笑顔、生き生きとした愛らしい姿が写っています。

もうすぐ夏休み。さらに、子どもたちの活躍の場がより多くなる2学期へと引き続いていきます。この好期に、あらためてお気に入りの写真を『ほめ写』のポイントで選び、家に飾ってみてはいかがでしょうか。

わが子が“もっともっと自分に自信をもち自分のことを好きになってほしい”という願いをこめて……。